

アサリ稚貝育成装置「かぐや」の開発

豊前海研究所

背景、目的

全国有数のアサリ生産地であった豊前海では、昭和61年をピークに漁獲量が減少し、現在、きわめて低水準で推移しています。

研究所では、干潟の竹杭の中からアサリが偶然発見されたことを契機に、「かぐや装置」という新たなアサリ稚貝育成装置を考案し、この装置を用いた効率的なアサリ増殖手法について検討しました。

成果の概要

(1) 装置の設置場所・構造

装置の材質は、竹から加工のしやすい塩ビ管に変更しました。また、設置場所は、発案のきっかけとなった干潟から管理のしやすい漁港内に移しました。

装置のサイズ検討など、コンパクト化を図った結果、野菜カゴに収納した効率的な装置を開発することができました。



かぐや装置の効率化（左：干潟設置型（旧型）、右：漁港設置型（現行型））

(2) 最適な稚貝の收容方法

装置への稚貝の收容について検討したところ、殻長0.5mmの微小サイズから投入が可能で、条件の良い春～秋期なら約2ヶ月で10mm程度に成長することがわかりました。

かぐや装置による生産稚貝のコストを試算したところ、10mm稚貝1個あたり約0.1円となり、従来の陸上生産に比べコストが1/10に低減されました。

研究所では、「かぐや装置」のマニュアルを作成し、豊前海の各漁協へ配布し、現在、5漁協8支所に技術指導を行っています。

また、本県他海区や他県から多くの視察や問い合わせがあり、積極的なアドバイスを行っています。

かぐや装置の概要

項目		概要
構造等	素材	塩ビ管 内径10cm、長さ8cm
	収納器具	野菜かご(筒2段式×7個、計14個)
	設置場所	漁港内 地盤高0.7mが最適
收容稚貝	密度	2,000個/筒(野菜かご内28,000個)
	サイズ	0.5mmから可能
メンテナンス		成長に応じ、最低1回のメッシュ網交換
生産コスト		0.1円/個程度